刈谷市歴史博物館NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

Vol.07
2021.7

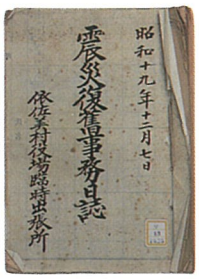
CONTENTS

Next Exhibition［次回展示］---------- 1
Description［解説］---------- 2
Report & Column［報告&コラム］------- 3
Information［ご案内］---------- 4

NEXT EXHIBITION 次回展示

「戦時下の刈谷―人びとの暮らしと記憶―」

開催日　2021年7月17日㊏～8月29日㊐



▲震災復旧事務日誌
（当館蔵）

殿鐘（深興寺蔵）▶

昭和12年（1937）に日中戦争、昭和16年（1941）には太平洋戦争が始まり、多くの国民が戦争に関わることとなりました。戦地で戦う兵士たち以外にも、多くの人びとが戦争の影響下での生活を余儀なくされました。戦争の長期化によって食料や資源、労働力が不足すると、刈谷の人びとも物資を供出したり、工場などに動員されたりしました。さらに、戦争末期には地震にも見舞われています。

本企画展では、戦時下の刈谷の人びとがどのような生活を送っていたのか、刈谷市内に残された資料を中心に紹介します。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

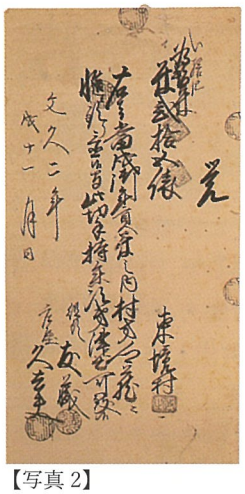
佐藤峻吉家文書の「助郷札」

慶長６年（1601）、徳川家康は近世伝馬制度を確立し、池鯉鮒宿をはじめとした東海道の宿場には連絡・輸送のため馬や人足が集められました。しかし、その負担は宿場のある町だけでは賄いきれないことから、元禄７年（1694）、宿場の近隣の村々には助郷として人馬などを提供するよう取り決められました。（野田村文書「東海道池鯉鮒町助郷帳」ほか、野田史料館蔵）

【写真１】

助郷で宿場の応援に参加した人々には米が支給されるのですが、【写真１】は助郷札といって、その給米と交換してもらうための札です。こちらは現在、佐藤峻吉家文書の一部として当館の所蔵となっています。佐藤峻吉家文書は、かつて佐藤峻吉氏から刈谷市郷土資料館に寄贈された資料群です。

この助郷札には「弐升」とのみ記され、３種の黒印が捺されています。上部には小さい角型の割印がありますが、文久２年（1862）11月の年貢米を郷蔵で預った際の覚書【写真２】を見ると、「東境村」の文字の下に同じ印が捺されており、村印として機能していたと考えられます。また覚書と印を見比べると、助郷札の「弐」にかけて捺されている印は「庄屋　久大夫」の印、「升」にかけて捺されている印は「組頭　友蔵」の印だということが確認できます。そのため、この助郷札は覚書と同じ文久２年頃に作成され、村役人によって給付される米の額が定められていたことがわかります。東境村は相給の村でしたが、彼らは西端藩領の村役人なので、この助郷札は東境村のうち西端藩領で通用していたものと考えられます。助郷札は全部で35点ありますが、他のものを見るとこの３種以外にも印があり、組み合わせも様々です。庄屋久大夫・組頭友蔵に加え、やや小ぶりの丸印が合わせて捺されているものもあります【写真３】。これは村役人の残りの一役である百姓代の印ではないかと考えられます。組み合わせが異なるものは、使われている紙の質が異なる（【写真４】紙を漉いた時にできる簾の痕が良く見える）ものもあることから別の時期に作られたもので、文久２年頃に作られたもの【写真１】に前後する時期のものと推定できます。いつ頃あけられたものかはわかりませんが、札の上部の綴り穴【写真５】が当時のものだとすれば、紙縒りなどを通し複数枚綴って宿場に渡したのでしょう。そして宿場では、実際に人足として来た人にこの助郷札を渡します。人足はそれを持って村へ帰り、村にその助郷札を提出して記載された量の米と交換してもらったのです。東境村の助郷札は１枚につき２升の米を受け取ることができました。


【写真２】

【写真３】

【写真４】

【写真５】

ただし、これらの負担はあくまでも助郷として協力する村側の負担となっていました。さらに池鯉鮒宿に至っては、自分たちで人馬を用意せず、その供給を助郷の村々に転嫁していたことが問題となり村々が訴えて争論に発展したこともあるなど、助郷は村の生活に大きな打撃を与える制度でもありました。

（当館学芸員　山下智也）

《参考文献》
佐藤峻吉「助郷」（同著『西境の昔話』私家版、1977年）
同　「刈北旧話　東境村の蔵米切手と助郷札」（刈谷市郷土文化研究会編『郷土研究誌かりや』第６号、1985年）
『刈谷市史　第２巻　近世』（刈谷市、1994年）第11章第１節「陸上交通」

REPORT 報告

企画展「収蔵品展～受け継がれた刈谷の名品～」

2021年1月16日㊏～2月14日㊐

本展では、市民の皆様から寄贈・寄託された貴重な品々を、「収蔵品展～受け継がれた刈谷の名品～」と題して紹介しました。

刈谷市の指定文化財である「豊臣秀吉書状」「神代小町絵巻（野田八幡宮蔵）」のほか、刈谷の豪商に伝わる化粧道具や、刀工寛重作の刀など幅広い内容の資料を展示しました。中でも、平成31年に寄贈され、修復を終えたばかりの「伝月僊筆 三国志図屏風」の眩い黄金色は、多くの方の目を引きつけていました。

関連イベントでは、本展で展示をした「山下氏勝宛書状」について、当館学芸員による解説講座を開催しました。また今回からスマートフォン専用アプリ「ポケット学芸員」を導入し、本展で出品した展示品の解説を配信しました。このアプリは今後も常設展示などで活用していく予定です。

改めて貴重な資料を寄贈・寄託をしてくださった方々、ご協力いただいた方々にお礼申し上げ、展示の報告とさせていただきます。

（当館学芸員　水野節子）

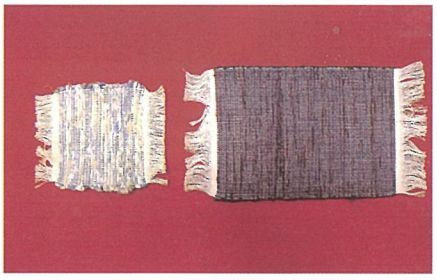
▲ 講座「尾張藩影の実力者、山下氏勝宛書状を読む」

▲ 学芸員によるギャラリートーク

COLUMN コラム

収蔵品よもやま話　はた織り機

▲ はた織り体験の様子


▲ 体験で作る作品

郷土資料館第5展示室にある14台のはた織り機は、現在も使われています。三河は、延暦18年（799）に木綿種が伝えられたという地で、早くから木綿の有力な産地となっていました。

来館者の皆さんも、土・日・祝日には実際にこのはた織り機を使って、コースターを作ることができます（有料／対象：小学1年生以上）。また、7月には4日間連続のはた織り体験講座と、刈谷市内在住の小学3年生から中学3年生までの児童・生徒と保護者を対象とした親子はた織り教室を開催しています（ともに有料）。詳しくは、郷土資料館ホームページで随時ご案内しています。皆様のご来館をお待ちしております。

（刈谷市郷土資料館学芸員　井筒康人）

郷土資料館 URL：https://www.city.kariya.lg.jp/shisetsu/bunka/kyodoshiryokan/1005322.html

INFORMATION ご案内

ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」

現在は歴史ひろばやお祭りひろばを中心に、刈谷の歴史解説を公開中です。

いつでもどこでも学芸員が展示物に付した解説文やナレーションを、自分のスマートフォンで楽しむことができる無料のアプリです。

当館のほかにも、日本各地の博物館や美術館の展示解説を読んだり、見たりすることができます。色々な楽しみ方を見つけてはいかがでしょうか。

ダウンロードはこちら 》》

無料でご利用可能です。

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

研究紀要

刈谷の歴史にかかわる調査研究や、博物館の活動の成果などをまとめた「研究紀要」を発行しました。

定価：500 円

販売場所：当館受付

歴史の小径　改定版

史跡めぐりのおとも「歴史の小径」を改定しました。

① 城下町周辺編
② 鎌倉街道編
③ 東海道編

配布場所：当館受付

カレンダー

7

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 戦時下の刈谷－人々の暮らしと記憶－
- 豊臣秀次展
- 休館日

利用案内

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

観 覧 料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料
企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道　JR 東海道本線　逢妻駅
名鉄三河線　刈谷市駅
から徒歩約 15 分

バス　刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車　徒歩約 3 分

車　伊勢湾岸自動車道
名古屋南 IC または豊田南 IC から
約 20 分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、または Twitter をご確認ください。
※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館
KARIYA city Museum of History
〒 448-0838 愛知県刈谷市逢妻町 4 丁目 25 番地 1
TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108
URL：https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/

◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館 NEWS のバックナンバーを掲載しています。

◀ 公式 Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。